

博士研究員 研究構想発表会

以下の日程で博士研究員構想発表会を開催いたします。博士研究員の「今までの研究成果」と「今後1年の研究構想」を発表いたします。教員・学生は問いません。お時間の許す方はふるってご参加下さい。

日時：4月15日（木）10:30～12:30（1人発表20分，質疑応答10分）
場所：情報科学研究科棟4階 リフレッシュスペース

プログラム（司会：関本 英太郎 教授）

鈴木 大輔 / メディア文化論・認知心理情報学（10:30～11:00）

“近年の情報教育の現状”

2003年に高等学校の学習指導要領に必修科目として「情報」が追加されたが、本年度それらの教育を受けた学生が本格的に大学院に進学してきました。本発表では、発表者がこれまで行ってきた研究を交えながら、近年の情報教育の現状について紹介します。



三枝崎 剛 / 情報基礎数理学Ⅰ（11:00～11:30）

“円周及び球面上の点の最適な配置”

「円周あるいは球面上の有限個の点集合で、どのような集合が良い配置といえるか？」この問題に答えを与える、球面デザインという概念があります。例えば、正20面体の頂点集合は、球面デザインという観点からも良い配置となっています。本発表では、球面デザインと様々な分野との関係を紹介します。



三浦 知志 / メディア記号論（11:30～12:00）

“ウィンザー・マッケイによるコミックス表現”

コミックス（マンガ）は今や社会的にも美的にも無視できない文化として存在しているが、本発表では、コミックス史最初期の天才として語られることの多い、アメリカのウィンザー・マッケイ（Winsor McCay, 1867-1934）というアーティストについて論じる。



宮本 拓歩 / システム情報数理学Ⅲ（12:00～12:30）

“作用素環論におけるある種のエントロピー”

エントロピーという言葉は熱力学や情報理論をはじめとし、果ては日常生活においても用いられ、乱雑さを測った量だと捉えられています。本講演では、このエントロピーと呼ばれる量が数学的にどのような枠組みで定義され、どのように扱われているかを、主に私の研究の観点からその様相を紹介したいと思います。

